

平成 20 年 4 月 23 日
G8 大学サミット運営会議

G8 大学サミットの開催について

1 趣旨

G8 大学サミットは、G8 諸国等の主要大学長等が G8 北海道洞爺湖サミット開催を機に一堂に会するというこれまでに例のない機会を通じ、地球・社会・人間システムとその相互関係のサステナビリティを達成し、さらに将来的にそれを担っていく次世代の育成を行う「持続可能な開発のための教育」を推進するため、大学間が現在形成しているネットワークをさらに束ねる上位の国際ネットワークを構築して連携することや、それを通じ新しい科学的知識を構築することにより、学术界からの国際貢献を目指します。

このため、G8 諸国、G8 以外のオーストラリア等主要先進国ならびに急速な経済発展を遂げつつあるブラジル、中国、インド等途上国の代表的な大学長等が集まり、サステナビリティという地球的、人類的課題に対していかに挑戦していくべきかを大学自身の取り組みも含めて討議し、札幌サステナビリティ宣言（仮称）としてとりまとめる予定です。また、その成果については、G8 首脳府の支持を働きかけるとともに、G8 首脳サミット等における地球温暖化問題の議論等グローバル・サステナビリティの実現に向けた国際的な合意形成プロセスに反映させたいと考えています。

2 参加大学

G8 大学サミットへの参加大学は、G8 各国 28 大学（うち日本 14 大学）及びその他 6 か国（オーストラリア、ブラジル、中国、インド、韓国、南アフリカ）8 大学並びに国連大学の合計 37 大学と確定しました（別紙 1 参照）。

3 会議テーマ及びプログラム

会議プログラムは、メイン・テーマの「グローバル・サステナビリティと大学の役割」に加え、より議論を深めるため、「グローバル・サステナビリティを支える新しい科学的知識と国際研究ネットワーク」及び「グローバル・サステナビリティのための Knowledge Innovation と教育」というサブテーマについて 2 つの分科会で話し合われます（別紙 2 参照）。

4 開催日・場所

平成 20 年 6 月 29 日～ 7 月 1 日 札幌市（京王プラザホテル札幌）

5 運営体制

国内の 14 大学からなる G8 大学サミット運営会議が実施主体となり、その下に実行委員会を組織して実際の運営に当たっています。

運営会議議長は東京大学総長、同副議長は、北海道大学総長及び慶應義塾塾長となっており、実行委員会については、委員長が北海道大学総長、副委員長は、東京大学、北海道大学及び慶應義塾大学からの役員それぞれ 1 名により構成しています。

6 その他

会議は日英の同時通訳付きで行います。

会議の取材に当たっては、事務局に事前登録をお願いします。7 月 1 日会議終了後、記者会見を行う予定です。

なお、一般の方々については、会場の都合上参加をご遠慮いただくこととさせていただきます。

【語句説明】

1 サステナビリティ (Sustainability)

持続可能性のこと。地球温暖化など環境問題を解決しながら経済発展を可能にする考え方

2 持続可能な開発 (SD: Sustainable Development)

より質の高い生活を次世代も含む全ての人々にもたらしることができる状態での開発を目指すこと

3 持続可能な開発のための教育 (ESD: Education for Sustainable Development)

2002 年の第 57 回国連総会において、2005 年からの 10 年を「国連持続可能な開発のための教育の 10 年」とすることが決議されたことに基づいて進められているもの

問い合わせ先：G 8 大学サミット実行委員会事務局

北海道大学国際企画課長	川野辺 創	011-706-3610
東京大学国際企画グループ長	清水 宣彦	03-5841-2090
慶應義塾大学国際連携推進室事務長	隅田 英子	03-5427-1899

G 8 大学サミット会議プログラム

1 全体日程

2008.6.29(日) 19:00 - 20:30 ウェルカム・パーティー
 6.30(月) 9:00 - 17:30 会議
 19:00 - 20:30 レセプション
 7.1(火) 9:00 - 11:30 会議
 11:30 - 12:00 記者会見
 12:00 - 13:30 フェアウェルランチ

2 会議会場 札幌市(京王プラザホテル札幌)

3 会議プログラム - テーマ「グローバル・サステナビリティと大学の役割」

6月30日(月)	内 容	
9:00 - 9:40	開会・挨拶・各大学紹介	
9:40 - 12:00	全体会議 (趣旨説明、問題提起、討論)	
13:00 - 17:30	分科会 A	分科会 B
	<サブテーマ> グローバル・サステナビリティを支える新しい科学的知識と国際研究ネットワーク ・グローバル・サステナビリティに関する「新しい科学的知識 (new scientific knowledge)」 ・ネットワークを束ねる「上位」のネットワーク : Network of Networks(NNs) (発表、討論)	<サブテーマ> グローバル・サステナビリティのためのKnowledge Innovationと教育 ・社会変革の起爆剤 - Knowledge Innovation ・次世代のグローバル・サステナビリティのために - 教育 (発表、討論)

7月1日(火)	内 容
9:00 - 11:30	全体会議 (各分科会のまとめ発表、議長サマリー、討論、宣言文採択等)
11:30 - 12:00 (予定)	記者会見

参加大学一覧

(国名のアルファベット順)

海外大学・国際機関 23 大学

国名	大学名	代表出席者職名・氏名
G 8 国	カナダ	President and Vice-Chancellor Stephen J. Toope
		President and Vice-Chancellor Indira Vasanti Samarasekera
	フランス	Directeur General Xavier Michel
		President Georges Molinié
	ドイツ	President Bernd Huber
		Rector Burkhard Rauhut
	イタリア	Rector Francesco Profumo
		Rector Augusto Marinelli (to be confirmed)
	ロシア	President Vladimir Kurilov
		Vice-Rector Nikolai Semin
	イギリス	Pro Rector (International Affairs) Mary Ritter
		Head, the Centre for Sustainable Development Peter Guthrie
そ の 他	アメリカ	Chancellor Gene Block
		Director, the Office of International Affairs Donald Filer
	オーストラリア	Vice-Chancellor Ian Chubb
	ブラジル	Coordinator, Area of the Environmental Sciences Pedro Leite da Silva Dias
	中国	President Xu Zhihong
		President Gu Binglin
	インド	Director Sanjay G. Dhande
		Vice-Chancellor Deepak Pental
	韓国	President Jang-Moo Lee
	南アフリカ	Vice Chancellor and Principal Ihron L. Rensburg
	国際機関	Rector Konrad Osterwalder
	国連大学	

印の5機関については、学長の代理が出席

国内大学 14 大学

	大学名	代表出席者職名・氏名
国立大学	北海道大学	総 長 佐 伯 浩
	東北大学	総 長 井 上 明 久
	東京大学	総 長 小宮山 宏
	東京工業大学	学 長 伊 賀 健 一
	一橋大学	学 長 杉 山 武 彦
	名古屋大学	総 長 平 野 眞 一
	京都大学	総 長 尾 池 和 夫
	大阪大学	総 長 鷲 田 清 一
	九州大学	総 長 梶 山 千 里
公立大学	首都大学東京	学 長 西 澤 潤 一
私立大学	慶應義塾大学	塾 長 安 西 祐 一 郎
	早稲田大学	総 長 白 井 克 彦
	同志社大学	学 長 八 田 英 二
	立命館大学	総 長 川 口 清 史

G 8 大学サミット
The G8 University Summit
趣意書

テーマ：グローバル・サステナビリティと大学の役割

Global sustainability and the role of universities

開催趣旨

近年における人間活動の急速な拡大は、資源・エネルギーの大量消費と廃棄を通じて、気候変動や廃棄物問題に見られるように地球環境に深刻な影響を与えはじめています。こうした人類の生存に係る地球的規模の課題の解決に取り組むには、人間活動が地球・社会・人間システムとその相互関係に破綻をもたらしつつある状況を正しく、統合的に理解し、グローバル・サステナビリティ（持続可能性）の観点からシステムの再構築、およびそれらの相互関係を修復する方策を示し、次世代にも豊かな人間社会を保障するためのビジョンの提示を行う必要があります。

主要先進国首脳会議（G 8 サミット）は、これまでも地球環境問題の国際的取組みに対して先導的な役割を果たしてきました。特に、本年 7 月にドイツで開催されたハイリゲンダム・サミットでは、2050 年までに世界の二酸化炭素排出量を半減するという「美しい星 50」と題する日本政府の提案や長期的削減に関する EU・カナダの意見が支持され、途上国の参加も含めた新たな国際的枠組みの必要性が協議されました。来年日本の北海道・洞爺湖で開催される G 8 サミットでは、2009 年までの合意を目指して、ポスト京都議定書のあり方についてさらに深い議論が期待されます。さらにリデュース、リユース、リサイクルを基本とした 3 R イニシアチブについても、国際的な協調の仕組みが議論されることになっています。

こうした国際的課題の検討には学術分野からの貢献が不可欠であり、気候変動問題を科学的に評価・予測し大きな成果を納めた気候変動に関する政府間パネル（IPCC）への貢献に見られるように、先端的な研究型大学が果たすべき役割はきわめて大きいことは言うまでもありません。グローバル・サステナビリティの問題は複雑多岐にわたり、サステナブルな地球の実現のためには、既存のディシプリンを横断して学術界がその英知を結集する必要があります。世界の先端的な研究型大学が連携してこの問題に挑戦する新たな枠組みを形成することが、人類と地球にとって今日求められています。とりわけ G 8 諸国はこの面でのリーダーシップが求められており、G 8 大学サミットでは、地球・社会・人間システムとその相互関係のサステナビリティを達成するための、主要先進国を中心とした大学間連携による学術界からの国際貢献を目指します。

先端的な研究型大学がこうした目的の達成に対して果たすもう一つの重要な役割には教育があります。サステナビリティの実現のためには、21 世紀全体を視野に入れた超長期

にわたる取り組みが必要であり、それを担っていく次世代の育成が不可欠だからです。G 8 諸国や経済成長が著しい中国、インドを含む途上国において持続可能な開発のための教育を推進し、先端的な研究型大学が連携して国際ネットワークを構築することは、ミレニアム開発目標の達成を含む、持続可能な社会の実現に大きく貢献すると考えられます。

このG 8 大学サミットでは、日本などのG 8 諸国において、学术界で先導的な役割を果たしている各国の代表的な大学の代表者を招聘し、上記に述べた地球的、人類的課題に対していかに挑戦していくべきかを討議するものであります。また、地球規模のサステイナビリティを実現するためには、オーストラリア、韓国などのG 8 以外の主要先進国や急速な経済発展を遂げつつあるブラジル、中国、インド、南アフリカなどの途上国との連携が不可欠であることから、大学サミットではこれらの国々において主導的な役割を担っている大学の代表者にも参加を求め、G 8 諸国との対話を進めます。

討議の成果については、G 8 首脳が支持を働きかけるとともに、グローバル・サステイナビリティの実現に向けた国際的な合意形成プロセスに反映させたいと考えています。